



大阪部会(第 55 回)

日 時: 2017 年 10 月 14 日(土) 18:00~20:00

場 所: 同志社大学大阪サテライトキャンパス

【内容要旨】 第 55 回の大阪部会の出席者は 10 名。

(1) 最初に、野間(同志社大学)から、最近の経済教育ネットワークの活動について、各部会の動向や 8 月の「先生のための夏休み経済教室」の様子を報告した。また、12 月 17 日に東京で、1 月 27 日に札幌で開かれる「冬の経済教室」で予定している内容を紹介した。その後札幌部会で紹介された『主権者教育実践事例集』(北海道高等学校政治経済研究会編)を回覧した。

(2) 飯島知明氏(島本町立第二中学校)から、大阪府と兵庫県の多数の中学校と合同で開催している「解説合戦&討論」という取り組みが紹介された。これは、時事問題に対して、生徒が新聞を読み自校で理解を深め意見交換をした後、複数の中学が集まり、賛成・反対に分かれて討論会を行ったり、その問題に対する解説や提案を競ったりする大会である。取り上げられている問題は、国会で議論されている原発再稼働や集団的自衛権など、まさに時事的で重要なものばかりである。本年 11 月 12 日に咲くやこの花中学校で第 13 回目が開催されることになっており、テーマは憲法改正である。丹松美代志氏(大阪教育大学等)も指導助言などで深く関わっており、学校間の交流を活かした「主体的で対話的で深い学び」の実践となっている。

(3) 奥田修一郎氏(大阪狭山市立南中学校)からは二つの報告があった。ひとつは第 33 回経済教育学会で報告された「主体的かつ深い学びをうながす経済学習実践考察～討論と社会科通信を授業の核にすえて～」であり、中教審で示された考え方を授業で実践するために必要な要素とその難しさにふれ、学習課題の設定が大切であると述べる。その後、学習課題を立てるための五つの仮説をあげ、自身の授業実践を振り返り、どのような学習課題を設定してきたか、それが「深い学び」とどのように関係するのか(あるいはしなかったのか)を自己分析している。

もうひとつは、江戸幕府の末期に行われた天保の改革を経済の観点からながめようとしたものであり、資料にもとづいて、江戸幕府が行き詰まった理由を調べ考えさせ、様々な視点から天保の改革に対する評価を行わせている。このようなアプローチは、経済教育ネットワークが「夏の経済教室」でプログラムに入れてきたいいわゆる「歴史シリーズ」に通ずるもので、篠原総一代表(京都学園大学)が江戸の三大改革を取り上げたこともある。

(4) 大塚雅之氏(三国ヶ丘高校)より、「熟議の価値に気づかせる地方自治の単元開発」と題する授業実践が報告された。地方自治の仕組みや働きについて理解させ、多数決による決定の限界も知ったうえで民主主義の価値を理解し合意形成に向かう態度を養うことをめざした 3 時間の授業計画である。1 時間目に身近な地域の問題点や地方自治の仕組みを知り、2 時間目で 5 つの公共政策を使った模擬地方議会を開く。政策に賛成する与党、反対する野党に分かれて議論し、多数決投



票により決定するのである。その後 3 時間目には、個人の判断で賛成反対を決め、5 つの政策への態度が異なる四つの党に対して、ボルダールで投票をする。もちろん投票結果は違い、民主主義の決定方法について生徒たちに意見交換をさせている。

- (5) 山本雅康氏（奈良学園中学高校）より、「持続可能な社会の形成について、「幸福」・「正義」・「構成」の枠組みで理解を深めるアクティブ・ラーニング型授業の実践」と題する報告があった。現代社会の初回に実施されたものであり、まず国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」について学び、個人で重要だと思うものを選ばせる。その後グループをつくり、異なる立場（生徒会、NPO、自動車会社、日本政府、奈良市）を各グループに割り当て、その立場ならどのような貢献ができるかを議論し発表し、相互に評価し合っている。
- (6) 最後に李洪俊氏（大阪市立長吉中学校）からは、2017 年春に実施された公立高校入試問題をピックアップした資料が配られ、全国的な傾向などがコメントされた。効率と公正に関する問題がほとんど見られなくなっている点、需要と供給に関するものは相変わらず多く、資料の読み取りと関連づけるものが増えてきた点、為替レートや国際分業の利益は、中学教科書でそれほど大きく扱ってないにもかかわらず、入試問題ではいくつも見られる点、などである。

（文責 野間敏克）

次回開催予定： 2017 年 12 月 9 日（土）、時間は 18:00～20:00、場所は未定。